

旧三井銀行小樽支店

三井銀行小樽支店は1927年に建設され、2002年まで営業していました。この建物は改修され、2016年に博物館として再開しました。かつては立ち入りが禁止されていた銀行の一部を見学し、オープンプランの銀行ホールでの展示を通じて20世紀初頭からの色内銀行街の発展を学ぶことができます。

地下にはアーチ天井の貸金庫室があります。夏に冷たい地下室の壁に生じる結露を排出する水路を備えたタイル張りの回廊に囲まれています。

この建物は、14世紀から15世紀のイタリアの豪華な商人の建物にインスピレーションを得て、建築家曽禰達蔵（1853年-1937年）によってイタリアルネッサンスリバイバル様式で設計されました。曽禰は1923年の関東大震災の教訓を踏まえ、鉄骨鉄筋コンクリート造りの建物を設計しました。

小樽支店は三井銀行が小樽の25銀行のうちの1つであった20世紀初頭には、この街の金融力の象徴でした。曽禰氏は、1912年に日本銀行小樽支店を設計した辰野金吾（1854年-1919年）の同級生でした。三井銀行小樽支店は、5つの歴史的建造物が博物館や画廊として一般公開されている小樽芸術村の一部となっています。